

「【校訓】継続は力なり」で未来を拓く

校長 二瓶 亮

日没の時間が早くなり、朝晩の涼しさに秋の深まりを感じる季節となりました。

8月29日(月)から始まった2学期も1カ月が過ぎました。ここまでも、なかなか収まらない新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら教育活動を進めてきました。全校生徒が一堂に会することを避け、吹香祭や第75期生徒会役員選挙、新人兼県民総合スポーツ大会班大会に向けた激励集会など、「今最大限できること」を探し、考えながら実施してきました。コロナ禍前と比べれば、規模や迫力、生徒の活躍の場などに物足りなさを感じることもあったかもしれませんが、実施できたことに感謝しています。



ここまで吹上中学校では、学級、学年閉鎖をすることなく、できる限りの教育活動が実施できています。これは、生徒はもとより保護者の皆様の御理解、御協力のもと、感染防止対策の徹底に高い意識を持って取り組んでいただいていることに尽きます。行動制限がかかっているとはいえ、気持ちが緩んでしまうといつでも誰でも感染してしまう状況が続いています。長引くコロナ禍に、さすがに大人でも我慢の連続に嫌気がさしてしまうところですが、吹中生の学びの場、体験の場を守るため、引き続き感染リスクを抑える行動と対策の徹底をお願いします。

これまでに経験したことない、有識者でも先が読めない状況ですが、時間は確実に過ぎていきます。失われた時間を巻き戻すことはできません。この状況を「不運」で片付けるのではなく、人間として小さな一歩を積み重ねていく粘り強さを身に付けたいものです。日本のプロ野球でヤクルトスワローズや阪神タイガース、東北楽天イーグルスなどの監督を歴任し、チームを日本一に導いた名監督であり、野球解説者としても親しまれた野村克也氏(1935年～2020年)は「人生」という二文字から次の4つの言葉を連想すると語っています(「野村ノート」小学館より)。

「人として生まれる」(運命) 「人として生きる」(責任と使命)

「人を生かす」(仲間、絆、仕事) 「人を生む」(継続、育成、繁栄)

野村氏はこの4つの意味を選手に説き、プロの世界で生き抜くための覚悟と成功への道標として示したそうです。



このコロナ禍で貴重な体験の場が奪われ、様々な場面で我慢を強いられる中で中学校生活を送っている吹中生へ、野村氏の言葉を借りてピンチをチャンスに変えるヒントを送りたいと思います。コロナ禍で中学校生活を送っていることを「運が悪いな」と思っている人が多いです。しかし、長い人生、いいことばかりではなく、歓迎しないことも残念ながら起こります。そんな人生をたくましく、自分らしく生き抜くためには、この状況(運命)も受け入れ、自分に与えられた役割(使命)を自ら探し出す力が必要です。身近なところに目を向けてみよう。吹中生には学校でも家の中でも役割があります。まずはそれを、(責任)をもって果たしましょう。その中には一人ではできないこともあります。そんな時は、助けてくれる(仲間)や家族の協力を得て、乗り切ろう。この小さなことの積み重ね(継続)がやがて大きな力となって自分の才能を開花させる、夢を叶える原動力となります。平時であろうとコロナ禍であろうと自分の人生を切り拓くのは自分自身です。

今後も警戒を緩めずに教育活動を展開していくことが求められます。吹上中学校では教職員一丸となって生徒が「成長したい」という思いを実現できるよう、ICTを有効に活用しながら、生徒が主役の授業づくり、自分の役割や才能を発見できる行事や部活動を実施していきたいと考えています。保護者、地域の皆様には、引き続き吹上中学校の教育活動に対する御理解、御協力を、併せて感染予防対策の徹底をお願いいたします。